

生きがいを与える「いのち」

(イザヤ四〇・二七〜三二)

途中二年三カ月の中断をはさんだものの、一九九〇年から続く長寿人気アニメと言えば「ちびまる子ちゃん」。その中で忘れられないのが「七夕」。結ばれた色々な短冊の中に祖父友蔵の「長生きがしたい」を見たまる子が凍りつくワンシーンである。

閑話休題。友蔵翁の願いがなかったわけではないだろうが日本人の寿命は延びた。まる子の時代の一九七七年と去年を比較すると男性は七二歳から八一歳、女性にいたっては七七歳から八七歳と十年も長く生きるようになった。しかし長生きが実現すれば即幸せとならないのが世の現実。老後の安心のためにウン千万必要だということ見出しが躍る経済問題はもちろんだがそれ以上に厳しいのは「生きがい」を見出すこと。特に会社や家族の「ため」に生きてきた人にはキツイことだという。得てきた地位や名誉ははぎ取られ、体の不調に悩まされ、家族には邪険にされではたまらない。明日は敬老の日。超高齢社会の中で明るく前向きに生きるために必要なメッセージを聖書から学んでみたい。

一、生かされていることへの気づき

スヌーピーの人気キャラ、安心毛布に指しゃぶりがトレードマークのライナス君が声高に「僕は独立してんだぞ」「この、、、一、二、そう、この二本の足でね」という漫画ではないが、人間は、特に青年から壮年期にかけては「自分で生きていく」「自立している」という自己理解を強く持つている。だからこそ頑張れるし努力もできるとも言える。しかし中国語で「人間」と書けばその意味するところは「社会」となるように、人間は本来一人では生きていけない動物である。それより以前にそもそも自分がなぜこの世に生を受けたのかを考えるとそこには自然科学では答えられない世界が広がっている。

この問いに聖書は明瞭に答えている。森羅万象を造ったのは神とその意思であり、神はまたその偉大な力により今日もこの世界を保持しておられる。そう考えると私たちはライナスのように「自立している」「生きてるんだ」と過剰に胸をはる必要はなくなる。逆にこの「生かされている」という気付きを得ることにより、加齢による衰えも上手に受容することが出来、自己卑下をしたり、他者にあたったりすることなく、のびやかに生きる事が可能になるのである。

二、生かされることと真の生きがい

さて三一節の「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかつて上ることが出来る」は聖書の中でも特に有名な一節であるが、ほかの訳では翼を「はる」とも訳されている。「なんだ「か」と「は」の一字違い。それくらいのことでも目くじらを立てるな」と言われそうだが、そのイメージは大いに異なる。「かる」は「駆る」であり、そのイメージは「自力」である。他方「張る」は他力だ。山に起こる上昇気流をとらえて上る鷲はほとんどはばたかない。イヌワシが羽ばたいて飛ぶ割合は全飛行時間中の十パーセントに満たないなどというレポートもあるという。そのように考えると適訳は翼をはる、或いは「翼で滑空する」(N I V)ではないかと思われる。「おれは生きていたのだ」「頑張るのだ」と翼をばたつかせればどんな強靱な人でも疲れてしまう。しかし、いのちの息吹である聖霊の力を頂き、その中に生きるとき、人は自分の力を超えた力によつて生かされ、高く上ることが出来る。

こう考えると弱くなることは存外悪いことではない。それはむしろ真の委ねへの扉だ。そしてひとたびその扉を開けるなら、そこには神の力によつて「ために生きる」という、飾らない、誇らない、しかし真実の結実の生が待っているのである。

\* \* \*

七月に開催された「ラブソナタ」。当日は特別ゲストに「冬ソナ」のチェ・ジウさんも駆けつけたとのことだが、他方で参加するはずのゲストがビデオ出演となる場面もあった。その人こそ聖路加病院名誉院長の日野原重明先生であった。「何としても出演したい」ということでぎりぎりまでキャンセルをしなかったという。

日野原先生は死を見続けたドクターであり、生涯かけて「死を生きる人間」というテーマを追い求めた人であった。しかし「生きること」と「死ぬこと」の達人と目され、多くの人にそれを教える立場になつても本人から不安が消えたわけではなかった。だが他方で彼は医師として「死にゆく自分を観察してやろう」というくらいの達観した好奇心と亡くなる四日前まで体操を続け、最後には自身の著作のとおり「感謝のことば」で人生を締めくくったという。そんな日野原先生が愛したみ言葉は「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です」(「コリント一三・一二」)だという。神はいのちであり、神は愛である。神の愛のいのちに生かされた人は真の生きがいを得られる。私たちも生かされていることに気づき、神の愛の中を生き、真の生きがいを手に入れようではないか。